



リンゼイに行ってきました

～交換学生制度を利用して高校生が留学～

名寄・リンゼイ姉妹都市友好委員会では、毎年高校生による相互交流を行っています。今年は7月26日から9月24日までの約2カ月間、市内の高校に通う3人の高校生が、交換学生として姉妹都市のカナダ・カワーサレイクス市リンゼイに滞在しました。滞在中は1週間単位でホームステイし、リンゼイの高校に通学するなどの体験をしてきました。参加した3人の感想を紹介します。

交換留学に参加して

名寄高校2年 小林 優

私は、今年の4月に交換留学の面接を受けました。幸運にも受かった私は、7月下旬から9月下旬までカナダ、オンタリオ州のリンゼイ市に交換留学生として行って来ました。

面接の結果が届いたときは嬉しい気持ちと同時に、慣れない場所で英語を使って会話し、家族と離れて2カ月間やっていけるのかという不安も感じました。そんな不安を抱えたまま、私は他2人の留学生と一緒にカナダへ向かいました。

カナダに着いたとき、日本と全く違うカナダがすごく新鮮で、不安が消えそうなくらいとてもワクワクしていました。でも、2日目から本当に英語だけの生活が始まって、うまく自分の気持ちを言葉にできないし、戸惑ってばかりで相手を困らせちゃうこともたくさんありました。慣れない生活ばかりだったので、それからの1週間は本当に長い時間でした。そんなときは、友達と連絡をとることもできたけれど、中学校の卒業式に先生がくれたメッセージを読んで泣きました。早く帰りたいと思って泣いたときもあったけれど、それを見てみると2カ月頑張るぞと思えました。

だんだん生活に慣れてくると、英

語での会話もだんだんスムーズになってきて、最初は「イエス」か「ノー」しか言えなかった自分も少しは喋れるようになってきました。

うまく伝わらないときとかがあっても、「大丈夫だよ」といつてくれたり、ジェスチャーをすると理解してくれたりして、本当に心の支えになったしもっとコミュニケーションをとりたいと思うようになりました。

そしていろんな家を回ったけれど、どこの家の人もみんな、最初から家族のように接してくれてすごく嬉しかったです。ホストシスターのおじいちゃんおばあちゃんに会ったことも何度かあって、そのおじいちゃんはお日本が好きで、家には日本の扇子や着物があったりして、自分の国をこんなにも好きな人がいてくれることにすごく感動しました。

カナダで出会った人はみんな優しく、一緒にいると辛いときでも笑顔になれました。そこで私は、もっと出会いを大切にし、自分が笑顔になったように、次は自分がたくさんの人を笑顔にできる人になりたいと思いました。

そして、カナダで過ごした2カ月間はたくさん勉強した時間でもあったけれど、それと同じくらい思い出もできました。

ナイアガラの滝、トロント、カナダの首都のオタワ、ケベック州、キャンプや教会。ほんとにいろんな所

に連れて行ってもらいました。どれも忘れられないとても大切な思い出になりました。本当に感謝しきれないです。

驚いたことに、リンゼイには東京などから来ている日本人留学生もいました。カナダに行ったら日本人になんて会えないかと思っていたので、とても嬉しかったです。その女の子とは仲良くなつて、ちよくちよく会ったりしました。高校卒業してからのこととか、お互いの夢を語ったり、いろいろカナダでの生活の話をしました。その子はカナダに来て6カ月くらい経っていて、英語も結構喋れていて、自分も負けてられないなどいい刺激をうけました。

これからも挑戦し続けようと心に強く思ったのは、この子に出会ったからだと思います。たった2カ月間だったけれど、自分の中では大きく変わった2カ月でした。

自分の夢を見つけるため、英語力をアップさせるために選んだ交換留学。お金を出してくれた両親や、周りの支えがあったからこそ2カ月があつたことを忘れず、これからの何事にも挑戦して、夢実現のために頑張りたいです。

そして機会があればまた、海外留学したいです。





▲現地での写真



▲杉之下 景介くん



▲渡辺 旬くん



▲小林 優さん



▲帰国後の報告会のようす



▲帰国後の報告会のようす

留学を通じて

名寄高校2年 渡辺 旬

世界は広がった。私は「井の中の蛙」であった。カナダ行きの飛行機に乗って、私は「北海道から出たことすらなかったのにカナダでうまくいくのか?」と、とても心配していた。不安を抱えたままトロント空港に着くと、リンゼイの方々が出迎えてくれた。それから車でリンゼイに移動した。街並みや景色を窓から眺めて、ここは既に外国であるということを実感した。

ホストファミリーの方々はとても優しくしたが、私が英語を完全に使いこなせていると思われ、英語の嵐を浴びせられた。英語独特の滑らかさに加えて、とても緊張していたこともあったので、全く伝えたいことが頭に浮かんでこなかった。しかし、数日を過ごすとそのなりに会話ができるようになった。わからない言葉は辞書を引き、表現できない場合はジェスチャーで伝えた。コミュニケーションツールは最大の味方で、行く先々の人々と関わることで、友人もたくさんできた。

カナダの友人たちは、私をいろいろな所に連れて行ってくれた。既存の娯楽にちょっとしたアレンジを加えるのがカナダでは上手なようで、バラエティに富んだレジャーを楽しむことができた。

また、食事を一緒に食べたが量がとても多かった。よく外国は量が多いから、すぐ太ると言われるが、私はそれほど太らなかった。彼らは全てを食べきらず、私は「もったいない!」と言ったが、彼らは「自分が食べたい分を、食べる方が良い」との返事がきたので文化のズレを感じた。確かに無理に食べるのも良くないと思った。

ところで、私は滞在中に8カ所の家庭にステイしたが、全てが同じカナダ人というわけではなかった。アメリカ人やスロバキア、スコットランドなどさまざまな国々の人たちを総合したような国だと思った。実際に私がオタワへ行ったときも、首都なので人が多いということもあるが、さまざまな服装や装飾、言語があった。でも、彼らは同じ国の中でお互い違う文化や宗教、価値観を持ちながらも理解しあっていた。また、カナダの人は日本の伝統に興味を持っており、日本のアニメやコミック、サムライや忍者について質問された。正直なところ、私より彼らの方が多い知識量があった。

カナダの特徴的な所はさまざまな国の人たちが集まっているだけではない。食事も良かったが、自然も素晴らしいかった。ホストファミリーと何度かキャンプに行ったとき、私はカヌーに乗った。移動や釣りのために湖上にいたのだが、そこから眺める一面に広がる水面と、それを囲む

森林に広く青い空が素晴らしかった。もともと、リンゼイは湖が多い地域で山が少ないので、このような湖での経験ができた。

日本に帰ってきて、改めてカナダで経験したことを振り返ると、第一に英語がそれなりに使いこなせるようになった。「英語」という言語に対する抵抗がなくなった。第二にたくさん日本の日本とカナダで違う部分、もしくは日本が外国と違う部分を見つけることができた。実際に体験しないとわからないものばかりだった。第三に自分と向き合うことができた。外国に限らず違う環境に身を投げ出すことで、自分の強みと弱みを発見した。私は人と会話をしようとするのが苦手だったが、今では少しは改善された。逃げ出さずに自分を理解するために向き合い進歩するように努めた。そのことで、少しは何かを学べたと思う。

海外に興味のある人はぜひ、留学してみると良い。2カ月だと、とても長くて辛いと思われがちだが、最初の1週間ですぐに慣れる。すると2カ月だと物足りなく感じるだろう。名寄・リンゼイ姉妹都市友好委員会では、この交換学生制度に補助を出してくれるので、高校生にとってはチャンスだと思う。カナダは美しい場所だ。私が過ごしたリンゼイでの滞在期間は、かけがえのない貴重な日々だった。



交換学生派遣以外にこんなことがありました

嶋多慶志さんがリンゼイ名誉市民に

今年8月にリンゼイからの訪問団が来名された際に、友好委員会の顧問である嶋多慶志さんへ同委員会のヘザー委員長から、リンゼイ名誉市民の称号が授与されました。

このたび、カワーサレイクス市リンゼイから証書が届き、10月31日に駅前交流プラザ「よろーな」で開催した「ハロウィンパーティー」で授与式を行いました。

リンゼイ交換留学

名寄高校1年 杉之下 景介

去年の夏にホストファミリーを1週間経験しました。それはとても楽しい時間でしたが、「何を言っているのかわからない」「英語で話しても伝わらない」など悔しい思いもしました。そのとき、悔しいと同時に英語をもっと勉強したいという思いが強くなりました。そんなときに交換留学のことを詳しく知り、本物の英語を実際に肌で感じたことで応募しました。

行くことが決まり、行く前までは実感がなく不安だらけでした。しかし、行ってみるとホストファミリーの皆さんがとても優しく接してくれて、安心することができました。僕がめっちゃくちゃな英語を喋っているときでも、しっかりと話を聞いてくれました。そういう態度の点では日本人よりも良いなと感じました。

1週間は英語が聞き取れないことが多く、適当に返事してしまったり、いきなりよくわからない所に連れてかれたり、混乱することが多かったです。しかし、2週間目ぐらいから「何を言われているか」が少しずつわかるようになり、成長している実感がわきました。そして、少し自信もつきました。

かないことが多くて、ラズベリーのソフトクリームを頼んだらストロベリー味を渡され、注文したものと違うものがくることがありました。

カナダの食べ物には日本と比べて量が多かったです。ステーキなどの肉は食べ応えがある量でした。

カナダに着いてすぐにファストフード店に連れていかれて山盛りのフライドポテトが出てきたときはとてもビックリしました。時差ボケで気持ち悪い中、頑張って食べましたが結局食べることができませんでした。

マクドナルドのコーラも量が多いです。日本のLサイズよりもカナダのMサイズのほうが多くて、最初にMサイズが来たときは間違えてLサイズを注文しちゃったのかと思いました。ちなみに、カナダのLサイズは飲み終わるのに1日かかる量です。

僕の誕生日にはパーティーを開いてくれました。サブライズで手作りの「スシケーキ」も作ってくれました。スシケーキはすべてがお菓子でネタと海苔はグミ、シャリはライスクリスピーでできていました。また、日本語で「誕生日おめでとう」と書いてあり、とても完成度が高くて驚きました。

去年、名寄に来た留学生と一緒に「これは日本語でなんて言うの?」逆に「これは英語でなんて言うの?」と夜遅くまで教えあいつこをしたこと

が思いに残っています。一人で勉強するよりも楽しく覚えやすい英語の勉強でした。

この2カ月間で何回も英語を間違えるなど全く英語が伝わらなくて、何回も落ち込むことがありました。しかし、いろいろな失敗を繰り返していくうちに「失敗しちゃった」から「次は間違えない」という気持ちに変わりました。それから開き直って「せっかくのチャンスだから、間違えても挑戦する」という気持ちでたくさん話しかけました。それを続けていくうちに、「英語がうまくなったね」「発音よくなったね」と言われるようになり自信がさらにつきました。

僕自身、英語やカナダが好きなのでより多くの人に興味を持ってもらいたいです。そのために、この経験を自分だけに留めておくのではなく、友人や子どもたちに伝えたいです。「留学してみたい」と考えている人は、名寄市にこんな素敵な留学制度があるので、ぜひ活用してカナダに行ってみてください。そして、何回失敗しても挑戦して自分のための「何か」を手に入れて欲しいです。

自分の英語力はまだまだです。人に英語を教えられるようなイングリッシュスピーカーになれるように日本でもこれからは英語を勉強していきたいです。